JSP ニュース

2011年夏

No.70

証券コード：7942

第53期 報告書　平成22年4月1日～平成23年3月31日

代表取締役社長　塚本　耕三

JSPニュース　No.70　Contents

社長メッセージ …… 01
特集 …… 03
トピックス …… 05
連結財務ハイライト …… 06
連結セグメント情報 …… 07
要約連結財務諸表 …… 09
JSPカレンダー …… 11
株主優待制度／配当実績 …… 14
会社情報 …… 15
株主メモ／アンケートのお願い …… 16
東日本大震災の影響および対応 …… 17
表紙の写真 …… 18

当社歴史の中で蓄積してきた事業の育成と幅広いニーズの

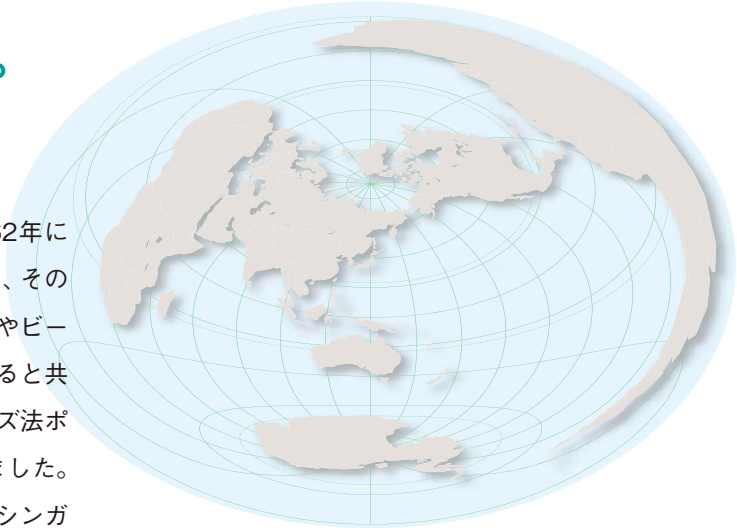
東日本大震災により被災された皆様には
心よりお見舞い申し上げます。
また、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

株主の皆様におかれましては、格別のご高配を賜りありがたく厚く御礼申し上げます。

この度、社長に就任致しました塚本でございます。

本年3月11日に発生しました東日本大震災に際し、お亡くなりになられた方々に対しまして、心よりご冥福をお祈りし、また、被災されました皆様にお見舞い申し上げますと共に、被災地の一日も早い復旧・復興を願っております。

力を新経営体制において更に充実させ、対応を加速してまいります。



当社は来年1月に創立50周年を迎えます。1962年にPSP（ポリスチレンペーパー）事業よりスタートし、その後世界に先駆けて無架橋発泡ポリエチレンシートやビーズ法発泡ポリプロピレン等の独自製品を企業化すると共に、住宅用ポリスチレン押出ボード、および、ビーズ法ポリスチレン事業を加えて業容を拡大してまいりました。又、海外展開におきましても、欧米、韓国、台湾、シンガポール、及びBRICsに事業の場を拡大しております。当社製品は、省エネルギー、省資源、環境保全という時代の流れに沿った有望製品であり、世界的な需要の拡大が期待されます。

一方、当社を取り巻く事業環境は、前述の大震災による深刻な影響の他、原燃料高、円高、株安、及びデフレの長期化等により、先行き不透明な状況にありますが、50年におよぶ当社歴史の中で築かれた技術力・現場力・営業力を有効に活かし、前任の井上同様、より国際競争力を備えた事業の育成と、海外市場を含めたより広いニーズに挑戦し、当社をより発展し得る会社にすべく努力する所存でございます。

何卒、株主の皆様の変わらぬご支援と、ご鞭撻を賜ります様お願い申しあげまして、御挨拶とさせて戴きます。

平成23年6月

塚本耕三

JSPは、鹿沼と四日市の2か所の研究所で、各分野の研究開発を行っています。
栃木県にある鹿沼研究所は、主に押出事業（シート、ボード関連製品）に関する製品の研究開発を行っています。

鹿　沼　研　究　所

鹿沼研究所

鹿沼研究所は、当社の主力事業所である鹿沼事業所にあります。事業化を念頭に実践的研究を踏襲し、小スケールから工場での生産に近いスケールへと研究を進め、工場との緊密な連携のもと、短期間で効率的に研究開発成果の移管を行っています。

また、当施設内には特許関連の部門である知的財産室も有し、強固に連携することで研究開発の成果・知的財産権の保護を推進しています。設立当初はビーズ製品も含め当社の全ての事業に関する研究開発を行っていましたが、2003年の三菱化学フォームプラスティック㈱との合併を機に、ビーズ事業に関する研究部門を四日市研究所に移管し、現在の体制をとっています。研究所のスタッフは総勢33名。幅広く各分野の研究開発を行っています。

4つのグループで研究開発を行っています。

●シートグループ

シート状に加工する製品の研究を主に行っており、無発泡シート、低倍率発泡シート、高倍率発泡シートと研究は広範囲です。具体的には、既存事業の食品用容器に用いられる「スチレンペーパー」の抜本的な技術改良や、高付加価値製品として認められた「ミラマットエース」などの永久帯電防止商品の開発、改良に注力しています。持ち前の技術を活かし、新たな分野への展開も模索中です。

●新素材グループ

浴室天井材や建設機械のルーフに用いられる「スーパーブロー」（ブロー成型技術とビーズ成型技術を融合した、表皮一体型の発泡体）や、自動車のエアコンダクトに用いられる「スーパーフォーム」（ブロー成型技術と押出発泡技術を融合した製品）の新たな付加価値の創造に注力しています。また、探索から新製品開発へと研究を進め、将来の柱となりうる新規事業の創出を具現化してまいります。

●ボードグループ

板状で厚い押出発泡断熱材「ミラフォーム」や防蟻性のある断熱材「ミラポリカフォーム」などの研究開発を主に行っております。低炭素社会において断熱材は省エネルギーの面からも重要な役割を担っており、高まる需要に対応しています。断熱性能の更なる向上、高付加価値化、より環境負荷の少ない発泡体の技術開発に取り組んでおります。

●分析グループ

社内の各部署や、グループ会社から依頼された、製品等の物性測定や成分分析等を行っています。特に分析力の高さは、会社にとって技術力の証明ともいえます。計画的に最新の装置を導入し、より詳細なデータの分析が可能となる体制を整えています。

一方、三重県にある四日市研究所は、主にビーズ事業に関する製品の研究開発を行っています。
今号では、JSPが世界に誇る技術力の源泉である2つの研究所をご紹介します。

四日市研究所

四日市研究所

四日市研究所は、三重県四日市市のコンビナートの一角にあり、当社四日市第一工場と同じ敷地にあります。四日市は、国内産業の中でも基幹となる自動車産業の集積する中京地区に位置しており、コンビナート区域には化学会社各社の工場が数多く林立しています。

近隣の様子

四日市第一工場は、1962年に油化バーディッシェ㈱（当社と合併した三菱化学フォームプラスティック㈱の前身）の本社工場として設立され、社名が変わりながらも、40年以上に亘ってEPSの製造を継続しています。

現在の研究棟は、1987年に建設され、1994年に増築が行われています。2003年の当社との合併後はビーズ事業EPP（発泡ポリプロピレン）・EPS（発泡ポリスチレン）の研究開発拠点となっています。現在、研究所のスタッフは総勢18名。平均年齢は35歳と若いメンバーが研究開発に従事し、常に新しい研究や技術の開発にチャレンジしています。

2つのグループで研究開発を行っています。

●ビーズ第一グループは、主に、魚・野菜箱や、断熱材、地盤改良材などに使われるEPSの関連製品を中心に研究開発をしています。

重合技術を基盤とした新しい機能や性能を有するポリマー材料の開発など、無限に広がる可能性の中で研究開発を行っています。2008年には日立化成工業㈱から営業譲渡されたEPS事業に関する技術と、当社の技術との融合に大きな役割を果たし、相乗効果の発揮に貢献しています。

●ビーズ第二グループは、主にバンパーコア材・内装材など自動車部品のほか、IT製品輸送用通い箱として使われる、EPPの関連製品を中心に研究開発しています。

既存製品の高付加価値化や、年々要望が高まる製品の環境対応などEPP製品のさらなる高度化に向けて研究しています。また、ビーズ第二グループには、JSPが世界中に展開するEPP事業の海外関連会社より技術情報が集まり、「EPP事業のシンクタンク」としての役割を担っています。

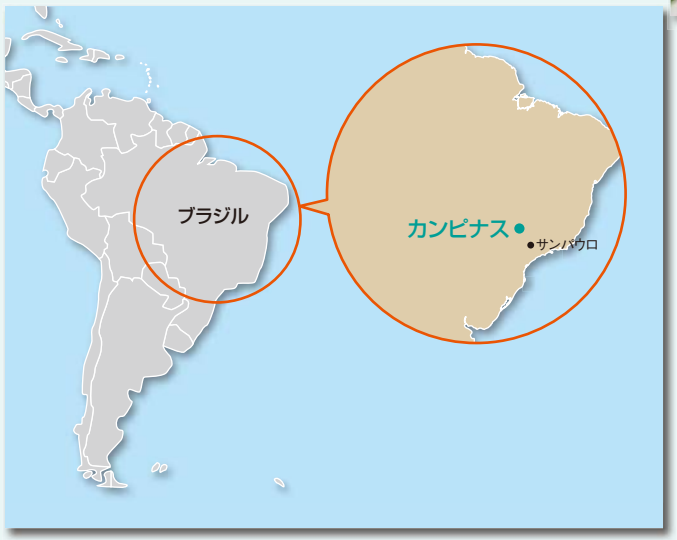
四日市研究所で開発された技術や新製品は、国内のみならず海外へも展開され、JSPのさらなる発展を支えています。

最近では、スピーディーな情報共有を目指し、テレビ会議システムを導入・活用し、鹿沼研究所や本社営業部門と緊密な連携を実施しています。

常に需要の創出に取り組み続ける四日市研究所から、また新たなJSPの主力製品を生み出してまいります。

JSP Brasil Industria De Plasticos Ltdaを設立～ブラジル進出

当社は2011年1月にブラジル現地法人JSP Participacoes（パーティシパソイス）Ltdaを設立し、同社を経由してブラジルの首都サンパウロ近郊のカンピナスにあります「Fagerdala（ファガダーラ）Brasil社」を同年2月に約17億円で買収致しました。「Fagerdala Brasil社」はスウェーデンに本社を置くFagerdala IndustriAB社の子会社で、ブラジルで発泡ポリプロピレンの製造販売を行っていました。親会社Fagerdala IndustriAB社は発泡ポリプロピレン事業以外にも建築、船舶素材の分野など様々な事業を手がけており、今般経営資源をそれらの事業に集中させたいとの意向で当社に当該事業売却の打診がありました。

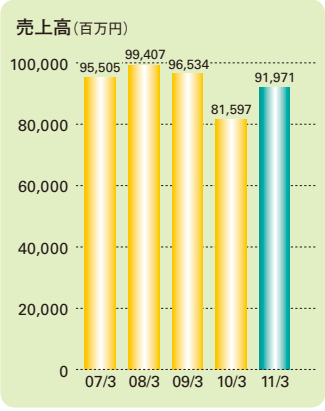


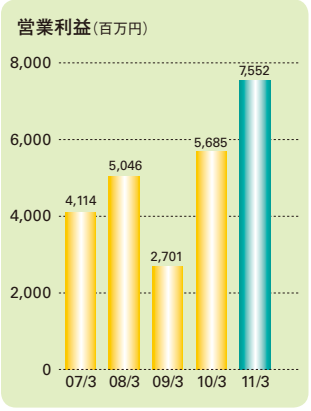
当社が進出していない南米に製造拠点を持ち、同地域で独占的シェアを保持していることに加え、自動車販売台数の伸長により今後も自動車関連製品の更なる需要拡大が見込まれることから、継続的な発展拡大が期待できると判断し、買収致しました。新社名はJSP Brasil Industria De Plasticos Ltda（ブラジル インダストリア デ プラスティク）です。

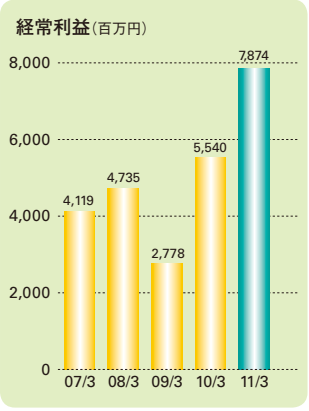
ブラジルでの自動車販売台数は2010年で約350万台、数年後には約500万台に達する見込で、中国、米国に次ぎ世界第3位の規模になるものと予想されています。

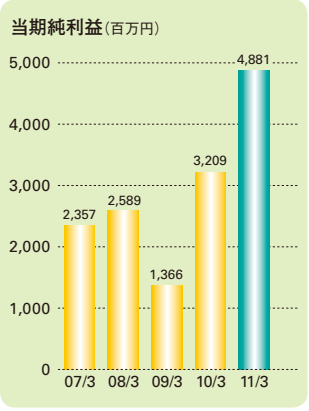
連結財務ハイライト

（単位：百万円）	2007/3	2008/3	2009/3	2010/3	2011/3
売上高	95,505	99,407	96,534	81,597	91,971
営業利益	4,114	5,046	2,701	5,685	7,552
経常利益	4,119	4,735	2,778	5,540	7,874
当期純利益	2,357	2,589	1,366	3,209	4,881
純資産	45,989	48,057	42,001	45,912	46,481
総資産	95,178	94,993	84,316	86,197	89,152
（単位：%）					
売上高営業利益率	4.3	5.1	2.8	7.0	8.2
売上高経常利益率	4.3	4.8	2.9	6.8	8.6
売上高当期純利益率	2.5	2.6	1.4	3.9	5.3
（単位：円）					
1株当たり当期純利益	75.76	82.74	43.74	103.35	161.25
1株当たり純資産	1,376.68	1,425.83	1,278.38	1,391.92	1,470.44
（単位：百万円）					
設備投資	7,923	5,743	4,371	3,203	3,368
減価償却費	4,566	4,950	5,069	4,688	4,582

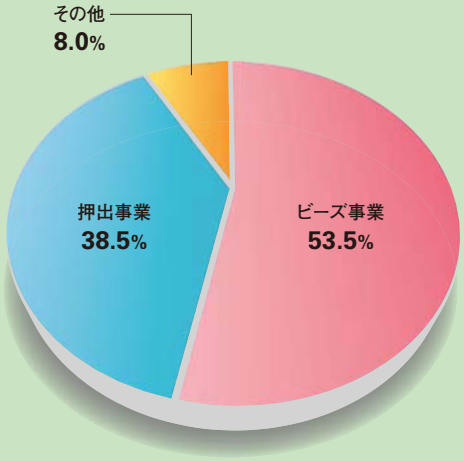








事業別売上高構成比



押出事業

押出事業は、当社グループの売上高の38.5%を占めています。

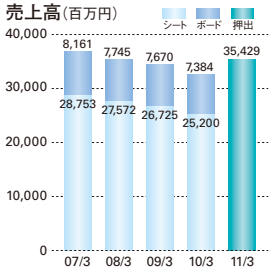
産業用包材の発泡ポリエチレンシート「ミラマット」は、液晶テレビ用基板の通い函などに用いられる永久帯電防止性能を持った高付加価値製品を中心に需要が好調に推移し、売上高が増加しました。食品用包材の発泡ポリスチレンシート「スチレンペーパー」は、主要顧客からの需要が底堅く推移したものの、市場環境が依然として厳しく、売上はほぼ前年並みに推移しました。広告用ディスプレー材や折材に用いられる発泡ポリスチレンシート「ミラボード」は、企業業績の回復を受け、前年同期に比べて売上が増加しました。また、発泡ポリスチレン押出ボードの住宅用断熱材「ミラフォーム」は、エコ住宅向け補助金等の後押しもあって需要は増大し、売上が増加しました。トラックの積載品を保護するための緩衝材や自動車用部品の通い函に使用されている発泡ポリエチレン押出ボード「ミラプランク」も需要は堅調であり、売上が増加しました。

これらの結果、押出事業の売上高は35,429百万円、営業利益は3,090百万円となりました。

ミラマットA
（永久帯電防止機能付き産業用包装材）

ミラフォーム
（住宅用断熱材／外張断熱工法）

同事業の売上高の推移



※2010年4月より、これまでのシート事業およびボード事業を統合し、押出事業としております。

ビーズ事業

ビーズ事業は、当社グループの売上高の53.5%を占めています。

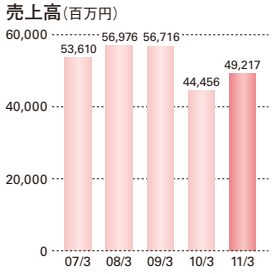
発泡ポリプロピレン「ピーブロック」は、バンパーコア材、内装材、新用途のシートコア材等の自動車用部品のほか、IT製品輸送用通い函、家電製品用緩衝材、競技用グラウンド基礎緩衝材等に用いられており、世界各地で製造販売を行っております。世界的な景気後退の影響を受けた前年同期に比べ、中国を中心としたアジア各地域の旺盛な需要や、アメリカ、ヨーロッパにおける家電用包材・自動車資材の需要が回復したことなどにより、売上・利益ともに増加しました。また、魚箱、家電製品用緩衝材、建設土木用資材に用いられる発泡性ポリスチレン「スチロダイア」も、用途や季節的要因による需要の微増減はあったものの販売数量は前年同期並みに推移しました。

これらの結果、ビーズ事業の売上高は49,217百万円となり、営業利益は4,685百万円となりました。

ピーブロック
（自動車部材／シートコア材）

スチロダイア
（保温・保冷容器）

同事業の売上高の推移



その他

その他の事業は、当社グループの売上高の8.0%を占めています。

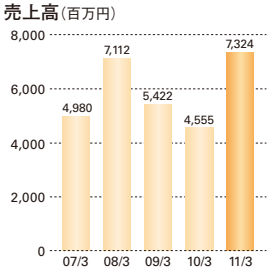
ユニットバス天井材に使用される「スーパーブロー」は、技術改良と業界需要の回復により普及機種用を中心に販売数量が増加しました。また、自動車エアコン用ダクトに使用されている軽量で断熱性、遮音性に優れたハイブリッド成形品「スーパーフォーム」も販売数量が増加しましたが、いずれも利益を計上するには到りませんでした。また、一般包材の売上は増加しました。

これらの結果、その他の売上高は7,324百万円、営業損失は121百万円となりました。

スーパーブロー
<外皮（無発泡層）、
内部発泡層一体成形品>

スーパーフォーム
（自動車室内用エアコンダクト）

同事業の売上高の推移



要約連結財務諸表

■要約連結貸借対照表

（単位：百万円）

（資産の部）	当期 2011年3月31日現在	前期 2010年3月31日現在	前期比増減額
流動資産	51,091	46,987	4,103
現金及び預金	13,474	11,882	1,592
受取手形及び売掛金	26,709	24,930	1,778
有価証券	0	39	△39
商品及び製品	4,862	4,633	229
仕掛品	598	532	65
原材料及び貯蔵品	2,868	2,671	197
その他	2,792	2,547	244
貸倒引当金	△214	△250	35
固定資産	38,060	39,210	△1,149
有形固定資産	34,194	34,995	△801
建物及び構築物	11,489	11,915	△425
機械装置及び運搬具	9,265	10,079	△813
土地	11,995	11,613	381
その他	1,443	1,386	56
無形固定資産	986	936	50
投資その他の資産	2,880	3,277	△397
投資有価証券	1,673	1,906	△232
その他	1,246	1,415	△168
貸倒引当金	△40	△44	3
❶ 資産合計	89,152	86,197	2,954

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

（負債の部）	当期 2011年3月31日現在	前期 2010年3月31日現在	前期比増減額
流動負債	31,908	28,495	3,413
支払手形及び買掛金	10,210	9,278	932
短期借入金	9,200	6,386	2,813
1年内返済予定の長期借入金	4,533	4,569	△36
1年内償還予定の社債	—	162	△162
その他	7,964	8,098	△134
固定負債	10,761	11,789	△1,028
長期借入金	9,307	10,113	△806
退職給付引当金	508	409	99
その他	945	1,266	△321
❷ 負債合計	42,670	40,285	2,384
（純資産の部）			
株主資本	50,638	47,736	2,901
資本金	10,128	10,128	—
資本剰余金	13,405	13,405	—
利益剰余金	28,475	24,413	4,061
自己株式	△1,371	△211	△1,159
その他の包括利益累計額	△6,794	△4,515	△2,279
その他有価証券評価差額金	11	167	△155
為替換算調整勘定	△6,805	△4,682	△2,123
少数株主持分	2,638	2,691	△52
純資産合計	46,481	45,912	569
負債及び純資産合計	89,152	86,197	2,954

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❶資産合計

総資産は89,152百万円で、前年同期比2,954百万円増加しました。このうち流動資産は現金及び預金、受取手形及び売掛金の増加等で4,103百万円増加、固定資産は1,149百万円減少しました。

❷負債合計

負債は42,670百万円で、前年同期比2,384百万円増加しました。このうち流動負債は短期借入金の増加等により3,413百万円増加し、固定負債は長期借入金の返済等で1,028百万円減少しました。

■要約連結損益計算書

（単位：百万円）

	当期 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	前期 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前期比 増減額
売上高	91,971	81,597	10,374 ❸
売上原価	64,320	56,875	7,444
売上総利益	27,651	24,721	2,929
販売費及び一般管理費	20,098	19,036	1,062
営業利益	7,552	5,685	1,867 ❹
営業外収益	762	694	67
営業外費用	440	839	△398
経常利益	7,874	5,540	2,333 ❹
特別利益	369	32	336
特別損失	773	476	296
税金等調整前当期純利益	7,470	5,096	2,373
法人税等	2,211	1,571	640
少数株主損益調整前当期純利益	5,258	—	—
少数株主利益	376	316	60
当期純利益	4,881	3,209	1,672 ❹

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❹営業利益、経常利益、当期純利益

経営効率化を進める一方、全社を挙げて様々なコスト低減に取り組みました結果、営業利益は7,552百万円（前年同期比32.8%増）、経常利益は7,874百万円（同42.1%増）、当期純利益は4,881百万円（同52.1%増）となりました。なお、本年3月の大震災の影響により特別損失401百万円を計上しています。

■連結包括利益計算書

（単位：百万円）

	当期 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	前期 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前期比 増減額
少数株主損益調整前当期純利益	5,258	—	—
その他の包括利益			
その他有価証券評価差額金	△155	—	—
為替換算調整勘定	△2,392	—	—
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	—	—
その他の包括利益合計	△2,548	—	—
包括利益	2,709	—	—
（内訳）			
親会社株主に係る包括利益	2,601	—	—
少数株主に係る包括利益	108	—	—

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■要約連結キャッシュ・フローの状況

（単位：百万円）

	当期 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	前期 2009年4月1日から 2010年3月31日まで	前期比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,840	11,283	△3,443
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,197	△4,115	△1,081
財務活動によるキャッシュ・フロー	△475	△4,698	4,222
現金及び現金同等物期末残高	10,487	9,069	1,418

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❸売上高

国内外において付加価値の高い発泡樹脂製品の開発・製造・販売に注力しました結果、前年同期比12.7%増加の91,971百万円となりました。

■連結株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

当連結会計年度	株主資本					その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
2010年3月31日残高	10,128	13,405	24,413	△211	47,736	167	△4,682	△4,515	2,691	45,912
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△819		△819					△819
当期純利益			4,881		4,881					4,881
自己株式の取得				△1,159	△1,159					△1,159
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）						△155	△2,123	△2,279	△52	△2,332
連結会計年度中の変動額合計	—	—	4,061	△1,159	2,901	△155	△2,123	△2,279	△52	569
2011年3月31日残高	10,128	13,405	28,475	△1,371	50,638	11	△6,805	△6,794	2,638	46,481

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

1
January

「中国子会社（上海）の社名変更のお知らせ」を発表

1月11日、当社中国子会社の社名を1月10日付けで変更したことを発表いたしました。

＜変更前＞：

杰斯比国際貿易（上海）有限公司

JSP International Trading（Shanghai）Co.,Ltd.

＜変更後＞：

杰斯比塑料（上海）有限公司

JSP Plastics（Shanghai）Co.,Ltd.

「第1回クルマの軽量化技術展」に出展

1月19日～21日の3日間、東京ビッグサイトで開催された「第1回クルマの軽量化技術展」に出展いたしました。展示ブースでは発泡体の特長である軽量性・断熱性について紹介し、車体軽量化の部材として有用であることを提案いたしました。
多くの新聞・雑誌に取り上げていただき、大手自動車メーカー様からも問合せを頂戴しております。

「業績予想の修正に関するお知らせ」を発表

1月31日、業績動向を踏まえ平成22年10月28日に公表した当期（平成23年3月期）の連結業績予想を修正いたしました。これは海外での自動車産業の業績回復やIT製品輸送用通い函の需要拡大、国内でのエコカー補助金制度や家電・住宅のエコポイント制度に後押しされ、第4四半期も引続き好調を維持する見通しとなったためです。

「平成23年3月期 第3四半期決算短信」を発表

1月31日、東京証券取引所に平成23年3月期 第3四半期決算を報告し対外発表いたしました。

（単位：百万円）	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
平成23年3月期第3四半期	**70,196**	**6,251**	**6,278**	**4,538**
平成22年3月期第3四半期	60,977	4,481	4,415	2,909
参考：平成22年3月期	81,597	5,685	5,540	3,209

2 February

「ブラジルFagerdala社の買収に関するお知らせ」を発表

2月28日、ブラジル・サンパウロ近郊のカンピナス（Campinas）にある発泡ポリプロピレンの製造販売を行なっているFagerdala Brasil Ltda.を買収（連結子会社化）することを発表いたしました。これにより当社が進出していない南米に製造拠点を有することができると共に、自動車販売台数の伸長により今後も自動車関連製品の更なる需要拡大が見込まれることから、継続的な発展拡大が期待できると判断したためです。

≪1. 事業買収価格≫

34,095千レアル（約1,704百万円）　　1レアル＝50円換算（以下同じ）

≪2. Fagerdala Brasil社の概要≫

(1)会社名	Fagerdala Brasil Ltda.	
(2)所在地	ブラジル Campinas（サンパウロ近郊）	
(3)設立年	平成8年	
(4)代表者	Mr.Humberto Monteferrante	
(5)資本金	42,190千レアル（約2,110百万円）	
(6)事業内容	発泡ポリプロピレンビーズ及び同製品の成形品の製造販売	
(7)従業員	121名（平成23年1月31日時点）	
(8)大株主及び持株比率	Fagerdala Industri AB（80%） Mr.Humberto Monteferrante（20%）	
(9)上場会社と当該会社との関係	(a)資本関係　(b)人的関係 (c)取引関係　(d)関連当事者への該当事項	該当事項はありません

≪3. 買収方法≫

JSP International Group,Ltd.（当社出資比率100%）と当社共同で設立した新会社が、Fagerdala Brasil社の全株式を取得し連結子会社といたします。

≪4. 株式取得に関する日程≫

株式取得日　　平成23年2月28日

3 March

QCサークル活動全国大会開催

3月5日、当社恒例のQCサークル活動発表会全国大会を東京国際フォーラムで開催いたしました。全56サークルより12サークルが全国大会へ進み、日頃取組んできたテーマと成果を発表いたしました。今大会では、関西工場の王将サークルが「PSP56Mの着火事故撲滅」のテーマで金賞を受賞いたしました。

3月31日 平成23年3月期 決算日

資本金の変更（平成23年3月31日現在）

資本金	10,128百万円＜増加なし＞
前回報告（平成22年9月末）	10,128百万円
発行済株式総数	31,413,473株

4 April

JSP取引先持株会理事会開催

4月25日、JSP取引先持株会が開催され、平成22年度事業報告書の案件が承認されました。

「代表取締役の異動に関するお知らせ」を発表

4月28日、代表取締役の異動を決議し発表いたしました。

≪異動の内容≫

氏名	新役職名	現役職名
井　上　六　郎	代表取締役会長	代表取締役社長
塚　本　耕　三	代表取締役社長	代表取締役副社長執行役員

決算発表

4月28日、東京証券取引所に平成23年3月期決算の報告を行い、対外発表いたしました。

5 May

決算説明会開催

5月24日、如水会館において、アナリスト・ファンドマネージャーに対し、平成23年3月期決算の説明会を開催いたしました。

6 June

定時株主総会開催

6月29日、定時株主総会を開催いたしました。

【今後の予定】

7月下旬　平成24年3月期　第1四半期　決算発表予定

10月下旬　平成24年3月期　第2四半期　決算発表予定

株主優待制度／配当実績

株主優待制度

〈デザイン見本〉

■対象株主様

毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または登録された1単元（100株）以上を保有されている株主様

■優待の内容

一律3,000円相当の、社会貢献寄附金付オリジナルクオカード（株主様は3,000円全額ご使用いただけます）

■贈呈の時期

毎年の株主総会終了後に発送予定

■社会貢献寄附金「緑の募金」について

1995年に制定された「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき、㈳国土緑化推進機構及び各都道府県緑化推進委員会が行っている募金です。集められた寄附金は、森林整備・緑化推進事業・森林に関わる人づくりなどに活用されています。

配 当 実 績

■株主還元方針

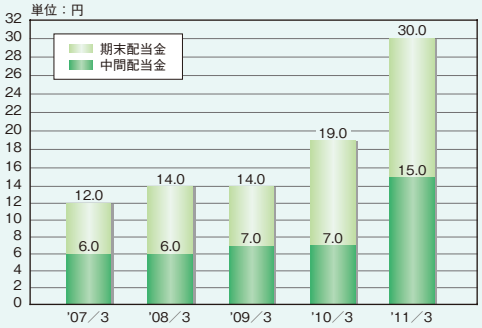
当社は、株主の皆様への利益還元を重要な政策として位置付けております。利益の配分につきましては、安定した配当を重視するとともに、各事業年度の連結業績と将来の事業展開に必要な内部留保の充実などを勘案しながら、総合的に決定する方針としております。

内部留保資金については、財務体質の強化とともに、今後の新製品、新技術への研究開発投資や新規事業展開のための設備投資に充当してまいります。

なお、当社は、会社法第459条第1項に基づく剰余金の配当を取締役会決議により行なうことができる旨定款に定めており、中間配当及び期末配当の年2回の取締役会決議による配当を基本的な方針としております。

当2011年3月期の1株当たりの配当金は30円、支払い済みの中間配当金を差し引いた期末配当金は15円となります。

■配当実績



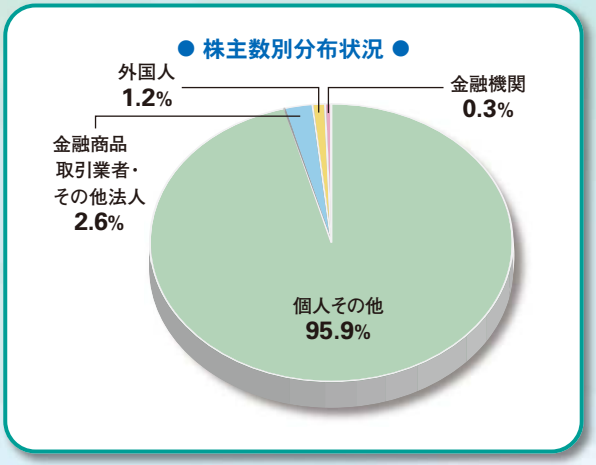
会社情報（2011年3月31日現在）

会社概要

商号	株式会社JSP
所在地	本社　東京都千代田区丸の内三丁目4番2号
事業内容	発泡プラスチック、 その他合成樹脂製品の製造販売および輸出、 土木・建築工事の設計・請負および管理
設立	1962年（昭和37年）1月
資本金	101億2,800万円
決算期	3月
従業員数	670名（男558名・女112名）出向者除く 連結2,271名（国内1,250名・海外1,021名）
事業所他	6営業所、10工場、2研究所
主要関連企業	国内11社、海外26社

株式の状況

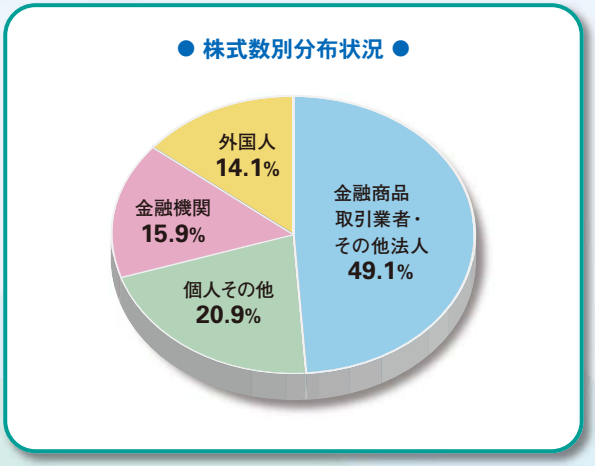
発行可能株式総数	46,000,000株
発行済株式の総数	31,413,473株
株主数	11,680名



大株主

株主名	株数（千株）
三菱瓦斯化学株式会社	13,212
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,410
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,214
JSP取引先持株会	1,064
ジェーピー モルガン チェース バンク 385166	710
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	494
JSP従業員持株会	472
資産管理サービス信託銀行株式会社	397
日本生命保険相互会社	301
野村信託銀行株式会社（投信口）	247

※当社は自己株式1,597千株を保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。



株主メモ／アンケートのお願い

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.co-jsp.co.jp/ir/index.html （ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

アンケートのお願い

株主の皆様のお声を頂戴いたしたく、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。なお、本アンケートを当社ディスクロージャーの充実以外の目的には利用しないことをお約束いたします。

Q1 当社株式にいつ頃投資されましたか

①1年以内　②2～3年前　③4～5年前
④5年以上前から　⑤株式公開時から

Q2 保有株式数をお聞かせください

①100株未満　②100株～200株未満　③200株～500株未満
④500株～1,000株未満　⑤1,000株～2,000株未満
⑥2,000株以上

Q3 当社株式を購入・取得されたきっかけをお聞かせください（複数回答可）

①四季報・会社情報　②情報誌・新聞　③広告　④インターネット
⑤証券会社の推奨　⑥説明会に参加　⑦家族・知人の紹介
⑧持株会より引き出し　⑨相続・贈与

Q4 当社株式購入時の重視事項についてお聞かせください（複数回答可）

①将来性・成長性　②安定性　③配当　④株主優待
⑤株価の割安感　⑥知名度・ブランド　⑦事業内容
⑧開発技術力

Q5 今後、当社に期待されている事は何ですか（複数回答可）

①積極的な事業拡大　②経営効率の改善　③安定経営
④業績連動型配当　⑤安定配当　⑥自社株買い　⑦株式分割
⑧株主優待制度の維持　⑨株主優待制度の見直し

Q6 JSPニュースについて印象をお聞かせください

①大変良い　②良い　③悪い

Q7 JSPニュースを通じてお知りになりたい情報をお聞かせください（複数回答可）

①社長メッセージ　②新技術情報　③新製品情報　④経営方針
⑤個別事業の説明　⑥リスク情報　⑦CSR情報　⑧株式手続き

Q8 当社株式に対する今後の方針をお聞かせください

①買い増し　②長期保有（5年以上）　③中期保有（2～4年程度）
④短期保有・売却予定

Q9 株主優待制度のご評価をお聞かせください

①大変満足している　②満足　③不満　④大変不満

Q10 当社に対するご意見・ご要望をお聞かせください

※同封の回答用ハガキに、上記質問へのご回答をご記入いただき、平成23年7月末日迄に郵便ポストへご投函をお願い申し上げます。

東日本大震災の影響および対応

影響および対応

2011年３月11日に発生いたしました
東北地方太平洋沖地震により被災されました皆様には
心よりお見舞い申し上げます。

●従業員の被災状況について

当社グループ社員は、負傷者その他人的被害は発生しませんでした。

●事業所について

1. 鹿沼事業所（栃木県鹿沼市）

一部軽微な損傷はありましたが、復旧は早急に完了し、３月16日より生産を再開しております。

2. 鹿島工場（茨城県神栖市）

当工場は、地震発生時は定期修理中で大事は免れましたが、その後の点検・調査の結果、工場内の一部に地盤沈下及び隆起箇所が確認され、又生産設備の一部にも被害が発生していた事が明らかになりました。

主要な設備につきましては大きな被害はありませんでしたが、付帯設備関係及び近隣用役プラントから供給を受けている配管等に一部破損がありました。その後、全力を挙げ復旧作業に取り組みました結果、４月27日より操業を再開しております。

被災者の方々へ、私たちができること

JSPグループは、被災されました皆様の救援や被災地の復興に役立てていただくための義援金として、１千万円の支援を行いました。

また、JSPグループ社員より災害募金を募るとともに、救援物資として発泡断熱シート、発泡断熱ボード等防寒に役立つ当社製品を避難所へお送りしております。

当社グループは、提供できるあらゆる支援を今後も継続して行って参ります。

被災地の皆様におかれましては、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

「パンプロナの牛追い祭り」開幕の時

スペイン　パンプロナ

撮影・文
清 水　準 一（写真家）

サン・フェルミンのパレード

スペインの方は「お祭り大好き人間」で、その代表が「三大祭り」です。表紙の写真は7月6日12時、市長の宣告で「祭り」の幕が切って落とされた瞬間を撮ったものです。

祭りの正式名称は「サン・フェルミンの祭り」で、「牛追い」は付帯行事だったのですが、今ではこちらが主役になりました。世界に知られるようになった切掛けは闘牛好きだったアメリカの文豪ヘミングウェイの作品「日はまた昇る」の中に登場したからです。現在も彼が通いつめたバル※がカステイーリョ広場の一隅に当時のまま残っています。

6日12時に開始された祭りは一週間続き、終わりは14日24時です。「牛追い」はスペインでは珍しいものではなく、闘牛の前によく行なわれていますが、流石は名物、ここの闘牛は一週間続きます。その闘牛に使われる牛が毎朝8時に市庁舎の後方から闘牛場まで、要所要所に丈夫な柵こそありますが、白いシャツにズボンという装束に赤いキャップ・スカーフ・帯という粋な男たちが牛と追いつ追われつの活劇を演じるのです。もっとも勇敢な男は牛の角にぶら下がるというありさまなので、例年死者が出るそうです。この写真を撮ったところから男と牛のレースを見ましたが、勇壮そのものでした。柵の最前列で見た人のお話では「見るだけでも恐怖そのもの」だそうです。闘牛場に追い込まれた牛は無傷で元気そのもの、そんな牛に血の気の多い男たちは、再度挑戦します。市当局も祭りを盛り上げるセレモニーとして、有料ですが市民に開放していますので、牛も男たちもいっそう興奮します。（本番の闘牛に使われる牛は一太刀刺してあり、興奮していますが弱っています）

広場の一隅の二階のレストランに軽食をとりに上がりましたら、そこはダンスホールに模様替えし、正面にはバンドが軽快なリズムでムードを盛り上げていました。サンドウィッチを頬張りながら雰囲気を楽しんでいましたら、音楽が一瞬とだえ、突然ファンファーレ、その余韻収まらない内にバンドの中央から市長が現れ、早口にご挨拶、そして結びが「レッツ　ゴウ　ダンス」。その粋なこと、今でも忘れられません。

祭りの主役はパンプロナの守護聖人サン・フェルミンと前述しましたが、そのパレードが表紙の写真です。パレードは大聖堂から市庁舎までで、市長の後ろには守護聖人の神輿を中心に巨大な張子の首から上の人面を被った人たちが続きます。巨人達は市庁舎前の広場に着くと、気軽に観光客とのツーショットに応じてくれて、これまた人気の観光資源です。

祭りの間は、ホテル・レストラン・バルとお祭り用のグッズを売る屋台以外は全てお休みです。若者は発泡酒を掛け合い、奇声を発し、ワインをがぶ飲みし、バルではしゃぎまくっていますので、路上は割れたボトルで危険ですが、市当局が早朝丁寧に清掃しているため、危険なのは若者主役の深夜の限られた時間帯だけのようで、心配りに感心しました。

セビリヤの春祭りやバレンシアの火祭りは着飾った美女のパレードで始まる優雅な祭りであるのに比べて「牛追い」は男臭い・勇壮な祭りなので、かえって女性に人気があるのでしょう。バルで偶然会ったパリジェンヌが「スペインて、素敵」と感嘆していました。

※　バル（BAR）
スペインの町のあちこちで見かけるお店。フランスのカフェ、イタリアのバール、イギリスのパブなどにあたり、日本で言うと喫茶店と居酒屋と食堂がひとつになったような、スペイン人には欠かせない場所のひとつ。朝8時くらいから深夜まで営業しており、地元の人々はそれぞれ行きつけがあり、時間帯によって使い分けている。また待ち合せや休憩などにも利用されている。

Network

本社・事業所一覧

本　社			☎
	〒100-0005	東京都千代田区丸の内3-4-2（新日石ビル）	03-6212-6300

営業所			
札幌	〒060-0003	札幌市中央区北3条西1-1（サンメモリアビル）	011-231-2681
仙台	〒984-0817	仙台市若林区堰場12-5（ソレアード舟丁）	022-262-3271
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦3-4-6（桜通大津第一生命ビル）	052-962-3225
大阪	〒541-0053	大阪市中央区本町1-6-16（野村不動産堺筋本町ビル）	06-6264-7900
福岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-12-17（五幸ビル）	092-411-6854

出張所			
広島	〒732-0052	広島市東区光町1-12-20（もみじ広島光町ビル）	082-568-0566

工　場			
北海道	〒067-0051	北海道江別市工栄町23-4	011-384-1621
鹿沼第一	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼第二	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町5	0289-76-3271
鹿沼第三	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-2	0289-76-5905
鹿沼第四	〒322-0026	栃木県鹿沼市茂呂2626-4	0289-60-3305
鹿沼物流センター	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町13-1	0289-76-2121
鹿島	〒314-0103	茨城県神栖市東深芝16-3	0299-93-4111
四日市第一	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1220
四日市第二	〒510-0955	三重県四日市市北小松町扇廣1600	059-328-2563
関西	〒679-4304	兵庫県たつの市新宮町下笹515	0791-77-0213
九州	〒861-0111	熊本県熊本市植木町宮原553	096-274-7101

研究所			
鹿沼	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-3	0289-76-1600
四日市	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1245

海　外

北　米
- JSP International, LLC.（アメリカ）
- JSP International de Mexico, S.A. de C.V.（メキシコ）

南　米
- JSP Brasil Industria De Plasticos Ltda.（ブラジル）

欧　州
- JSP International SARL（フランス）
- JSP International GmbH & Co.KG（ドイツ）
- JSP International s.r.o.（チェコ）
- JSP International o.o.o.（ロシア）

アジア
- JSP Foam Products, PTE. Ltd.（シンガポール）
- Taiwan JSP Chemical Co., Ltd.（台湾）
- KOSPA Corporation（韓国）
- JSP Plastics (Wuxi) Co., Ltd.（中国）
- JSP Plastics (Shanghai) Co., Ltd.（中国）
- Kunshan JSP Seihoku Packaging Material Co., Ltd.（中国）
- JSP Plastics (Dongguan) Co., Ltd.（中国）
- JSP Foam India Pvt. Ltd.（インド）

JSP

発行　**株式会社 JSP**

東京都千代田区丸の内三丁目4番2号新日石ビル

IR室　TEL.03-6212-6306　FAX.03-6212-6302

ホームページ　http://www.co-jsp.co.jp

VEGETABLE OIL INK

R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています